

## どうなる？ マイヤー・ランスキーの孫によるリビエラ・ホテルの補償請求

### マイヤー・ランスキーの孫、接収ホテル・リビエラの補償を請求

マイヤー・ランスキーという名前を知っている人は多いでしょう。しかし、ホテル・リビエラの持ち主だったことを知っている人は少ないのではないのでしょうか。念のために、ある日本の旅行本には、リビエラの持ち主はラッキー・ルシアーノであったと書いてありますが、これは事実に基づきません。

さらに、ゲイリー・ラポポートという人物を知っている人はほとんどいないでしょう。彼は、マイヤー・ランスキーの孫で、昨年 12 月、米玖間で相互の補償問題が話し合われた際に、ホテル・リビエラの請求権があるとして、名乗り出た人物です (*Tampa Tribune*, December 9, 2015)。マイヤー・ランスキーは、最初の妻アンナとの間に一人の娘、サンディ (サンドラ・ロンバルド、現在 78 歳) と二人の息子、バーナードとポールをもうけました。ラポポート (60 歳) は、そのサンディと夫のビンス・ロンバルドの一人息子です。生存中の叔父のポール、母



サンディとラポポート@Mail Online

親サンディとラポポートの三人が、当時の資産価値の 800 万ドルを接収されたホテル・アバナ・リビエラの補償として請求するというものです。

ホテル・リビエラは、ハバナ市の海岸マレコン通りの西部、ベダート地区にある 21 階建て、368 室で、プール、キャバレーを備えた瀟洒なホテルです。宿泊された方も多くでしょう。



現在のホテル・リビエラ@ Google Maps

4 つ星クラスで筆者も何度か宿泊しましたが、残念ながら現在はメンテが不足してかなり荒廃しており、改修計画が立てられています。このホテルは、1957 年 12 月にホテル・アバナ・リビエラという名前でオープンしました。革命勝利前は、ホテル・ハバナ・ヒルトン (現在のホテル・ハバナ・リブレ) に次ぐ大きなホテルでした。では、マイヤー・ラン

スキーは、どういう経緯でその所有者となったのでしょうか、またどのようにそれを失ったのでしょうか。

### 法的にリビエラを所有していたのは誰か？

1958 年のキューバ会社年鑑によれば、ホテル所有会社の資本金は 400 万ドル、所有者は 20 数名のアメリカ人 (といってもランスキー配下のマフィア) とバチスタ政権の高級官僚たちで、そこにはランスキーの名前は出てきません (Guillermo Jiménez Soler, *Las Empresas de*

*Cuba 1958*)。建設資金は、1,400 万ドルでその半額をバチスタ政権の国立銀行から融資を受けました(Evaristo Villalba García, *Cuba y el Turismo*)。ホテルに場所を借りてカジノを経営していたのが、ランスキーでした。当時キューバにあった 10 のカジノの中で最もデラックスマなカジノといわれました。オープン以来 4 カ月で 300 万ドルの利益を上げたといわれています。場所の家賃は年間 20~25,000 万ドルでしたから、まさに濡れ手に粟の荒稼ぎだったといえます。

### ランスキーの生い立ち

マイヤー・ランスキー(出生時の名前はメイジャー・スコウリンスキー1902-1983)は、1902年、ロシア帝国のグロドゥノでユダヤ人の両親のもとに生まれました。家族は、1911年米国に移住し、ニューヨークの下町に居を構えました。その学校でランスキーは、後ほどニューヨーク・マフィアのボスとなるシシリー出身のラッキー・ルシアーノ(1897~1962)、バグジー・シーゲルを知り、生涯の友となりました。ランスキーは小柄で「リトルマン」と呼ばれました。アウトローの世界で生涯を送りますが、武闘派のマフィアではなく、頭脳明晰で、計算、商売に明るく、読書家で、沈着冷静で、「会計士マフィア」と呼ばれた、いわば経済マフィアでした。酒は特別の付き合い以外は飲まず、メモを取らず、大きな声で話さず、スペイン語は理解しましたが、話そうとしなかったといわれています(Enrique Cirules, *El Imperio de La Habana*)。\*15.12.23



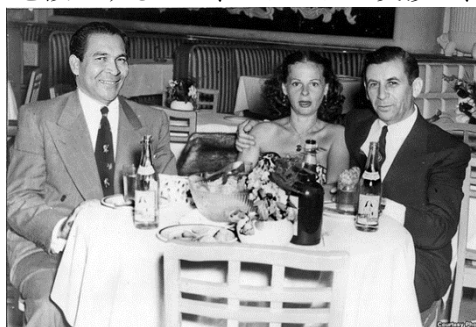
1920年代末にはランスキーは、ルシアーノとニューヨークの暗黒街を支配するようになりました。当時は、米国では麻薬取締法(ハリソン法 1914~)禁酒法(1919~1933)が制定されており、麻薬と酒が厳しく取り締まられ、組織犯罪グループ(マフィア)が闇取引で活躍するようになっていました。禁酒法の影でカナダからの密輸が厳しなると、キューバは、アルコールと麻薬とセックスの供給基地となりました(Eduardo Sáenz Rouner, *The Cuban Connection*)。

### ランスキー、バチスタとの汚れた関係始まる

1932年にはランスキーは、禁酒法が撤廃された後のマフィアのビジネスとしてカジノを考えるようになり、米国ではラスベガスを除き禁止されているので、キューバに目を付けるようになりました。1933年8月、8年間続いたマチャード独裁政権が、労働者、広範な市民のゼネストにより崩壊した後、1933年9月、軍下士官たちのクーデターが起こり、フルヘンシオ・バチスタ軍曹(1901~1973)が軍の実権を握りました。翌年10月、ランスキーは、ラム酒の取引を通じて知り合いとなっていたキューバ政治の影の実力者であるバチスタに

近づき、関係が始まりました(Enrique Cirules, *La Vida Secreta de Meyer Lansky en La Habana*)。目的は、いうまでもなく、キューバでカジノ・ビジネスを開始することでした(ランスキーは、麻薬にはほとんど関心をもたなかったといわれています: Enrique Cirules, *ibid.*)。

ルシアーノとランスキーは、キューバ・コネクションを設立するため、バチスタと交渉し、ハバナでのカジノ開設の許可を得るため 300 万ドルを払い、さらに、年間バチスタに 300 万ドル収めることを約束しました(タイム・ライフ編『マフィアの興亡』)。1937 年、ランスキー一家は、ハバナでホテル・ナショナルをはじめ、6 つのホテルを持ち、9 つのカジノを経営するとともに、バチスタ以外のキューバの政治家との関係も深めました。同時にキューバで麻薬が一層広まりました。ランスキーは、



バチスタとランスキー

陰で権力を維持しているバチスタからカジノの独占権を得ましたが、代わりに約束通り毎年 300 万ドルをバチスタに支払いました(マーチン・ショート『アメリカ犯罪株式会社』)。

1940 年バチスタは、選挙により大統領に選出され、偽善的にいくつかの民主的な政策を実行しました。1944 年から 8 年間真正党(アウテンティコ党)の時代が続きますが、政治や行政の腐敗が一層広まりました。バチスタは、1944 年の選挙で自分の党が敗北したことから、マイアミに「逃亡」しました。この裏には、ランスキーが、米海軍情報局から要請されて、特別特使として、旧友のバチスタを訪問して、「ルーズベルト大統領は、バチスタの政治活動からの引退を希望している」旨伝えた背景があります(Warren Hinckle & William Turer, *Deadly Secrets*)。もともと、バチスタは、マイアミから自派の勢力に指示を送り、影響力を維持しました。

### ランスキー、ルシアーノとキューバでカジノ経営を進める

1946 年、米国を追われたラッキー・ルシアーノが、リオから直接飛行機でキューバのカマグエイに到着しました。ランスキーが画策したものです。同年末、ルシアーノとランスキーは、ホテル・ナショナルで、フランク・コステロ、アルベルト・アナスタシア、トミー・ルッチーズ、ジョー・ボナンノ、ビト・ジュノビーズ、サント・トラフィカンテなど、500 人以上のアメリカ・マフィアのトップを集め、米玖間のマフィア・ビジネスを話し合う会合を持ちました。フランク・シナトラがショーに出演し、協力しました。その折、ルシアーノが、キューバのキャバレー・モンマルトルの経営者インダレシオ・ペルティエラにカジノ開設を進言しました。ルシアーノは、40 年代末から 50 年代初頭にかけて、キューバのピノス島を西半球におけるモンテカルロにする計画を立てました。贅沢なホテル、カジノでのギャンブ

ル、豊富な売春婦が売り物で、ルシアーノは、キューバを国際的な麻薬取引基地とする計画でした。ハバナは、高級コールガール、麻薬、違法の妊娠中絶の都として名を馳せ、「西半球の妊娠中絶の首都」とまでいわれました(Louis A. Pérez, Jr., *Cuba and the United States: Ties of Singular Intimacy*)。1948年1月にはシカゴのボス、サム・ジアンカーナ(1908~1975)もキューバでの賭博に加わり、50万ドルを弟のチャック・ジアンカーナに持たせて、ランスキーに届けます(サム&チャック・ジアンカーナ『アメリカを葬った男』)。なお、1961年にはサム・ジアンカーナは、フィデルを「アメリカ人をいかさま師かポン引きとぬかし、そのあたりの替え玉人形とはわけが違う」と、カジノの縄張りの損失を恨みつつも、フィデルの本質を見抜くようになっていました(同上書)。

1951年、米国では、マフィア・ビジネスに対する批判が高まり、キー・フォーバー委員会により議会でマフィア・ビジネスの公聴会開かれ、マフィアの存在が問題とされました。そこでランスキーは、マイアミの事業を止め、事業をハバナに集中します。他の米国マフィアもランスキーに倣って、米国外の安全な稼ぎ場として、再びハバナへの関心を深めました。

一方、キューバの真正党もバチスタに劣らず、アメリカ・マフィアとの関係は深く、グラウ・サン・マルティン大統領(1944~1948)も、プリオ・ソカラス大統領(1948~1952)も、マフィアから多額のギャンブル収入を得ていました。ランスキーとコステロは、インダレシオ・ペルティエラ議員に5万ドル渡し、ホテル・プレシデンテのカジノ経営権を取得しました(Katherling Hirschfeld, *Health, Politics and Revolution in Cuba since 1898*)。真正党政権下のキューバの政治・社会の腐敗はひどく、1948年同党から離党してキューバ人民党(オルトドクソ党)を創立したエドゥアルド・チバス党首は、1951年8月ラジオ放送で政敵の横領を糾弾しつつ、ピストルで自殺しました。この時、若きフィデル・カストロはオルトドクソ党の左派に属していました。

#### 独裁者バチスタとランスキーの関係深まる

1952年3月、同年6月の選挙に立候補していたバチスタは、オルトドクソ党が有利で、勝利の見込みがないと見て、クーデターを行い、プリオ・ソカラス大統領を放逐しました。その際、ランスキーは、25万ドルの賄賂をプリオに贈り、クーデターを黙認させたといわれています。事実、プリオは、クーデターを事前に知っていましたが何の対策も取らず、クーデターの日も何の抵抗せずにメキシコに亡命しました。

1952年10月、早速ニクソン米副大統領が、バチスタ大統領就任のためハバナを訪問し、サン・スーシーのキャバレーとカジノで遊びました。この時、ニクソンはカジノで2万5000ドル負け、不渡りとなる小切手を払いましたが(Warren Hinckle & William Turer, *Deadly Secrets*)、経営者の粹なマフィア、サント・トラフィカンテは大いに立腹したものの徴収せず、将来に貸を作ったようです。ニクソンは、一度も負けを払いませんでした(William Weyand Turner, *The Cuban Connection, Nixon, Castro, and the Mob*)。



バチスタとニクソン

バチスタは、不安定な砂糖産業よりも、収入が安定し、彼自身の実入りにもなる観光の開発に興味をもち、ハバナでのカジノ、麻薬、セックスからの収入に依存するランスキー、トラフィカンテ・グループと利害が一致した結果、50年代後半にかけて、米国資本で次々とホテルが新設、改修されます。1952年ホテル・コパカバーナ(\$1,272,000)、ホテル・ベダード(\$950,000)、1954年ホテル・コリーナ(\$400,000)が開業します。1953年初頭、ランスキーは、ハバナの三大キャバレーで、トロピカーナ、サン・スーシーと並ぶ、キャバレー・モンマルトルの株の50%を取得しました。それまでキューバでは、一般に賭博で露骨ないかさまが多く、米国人観光客の不満となっており、バチスタは観光客の減少を心配し、ランスキーを観光改革の顧問に任命しました。ランスキーは、各カジノに「クリーンな」ゲームを義務づけ、あからさまな詐欺賭博を一掃しました(Thomas G. Paterson, *Contesting Castro: The United States and the Triumph of Cuban Revolution*)。1954年バチスタは、25,000ドルをカジノ税としてカジノに科しました(これは58年に倍増されました)。



キャバレー・サン・スーシー

### 腐敗社会に憤り、フィデルたち青年立ち上がる

しかし、一方で、腐敗し、米国の半植民地のようになったキューバ社会をなんとか健全な自立した社会にしようと、一群の青年たちも行動し始めます。キューバでは、ギャンブルに年間国家予算を超える、2億5600万ドルが投資されていました。失業や貧困から売春に身を落とさざるをえない女性が10万人もいました(全女性人口300万人の3%余)。公共事業からの横領額は年間2億ドルにのぼりました。1958年末、米国資本は、電信電話の90%、砂糖生産の50%以上、鉱業の90%、畜産業の90%、社会サービスの80%を支配していました。1949年から1958年まで米国資本は5億500万ドルの利益を上げましたが、4億2,200万ドル

は米国に送金されました。1953年7月26日フィデル・カストロ達153人の青年が、失敗



はしましたが、キューバ東部のモンカダ・バヤモ兵営を襲撃しました。逮捕されたフィデルは、同年10月法廷で自己を弁護して、キューバ社会の悲惨な現状を告発し、自分たちの展望を提起し、「歴史は私の無罪を宣告するであろう」と結びました。しかし、懲役15年の刑が科されました。

1955年米議会のダニエル委員会で、米国内での麻薬の密売が問題とされ、マフィアの収入が大きく減少し、アメリカ・マフィアは一層キューバを供給源として重視するようになります。1955年バチスタは、100万ドル以上のホテル、20万ドル以上のナイトクラブ、すべてでカジノを許可しました。同年、ホテル建築資材の輸入が無料とされました。その結果、1,000万ドル以上がホテルに投資されました。ホテル・ナショナル、ホテル・セビージャ、ホテル・コモドーロ、ホテル・ドウビーユ、ホテル・カプリ、ホテル・リビエラ、ホテル・ヒルトンなど、名だたるホテルすべてでカジノが開設されました。ランスキーは、自らが経営するキャバレー・モンマルトルにカジノのディーラー学校を設立しました。ランスキーは、自分のカジノから50年代毎月50万ドル以上の稼ぎを得ていました(Louis A. Pérez, Jr., *Cuba and the United States: Ties of Singular Intimacy*)。1955年には、ホテル・リド(\$300,000)、ホテル・ロシータ・デ・オルネド(\$3,500、現在のシエラマエストラ・ビル)が開業し、ホテル・コモドーロが増築され(\$225,000)、ますますホテル・カジノが増えました。

一方、同年5月、フィデル他、モンカダ兵営襲撃主要幹部は、恩赦でピノス島の監獄から釈放され、より幅の広い反バチスタ統一戦線「7・26運動」を結成し、都市と山岳地帯でゲリラ戦の準備を進めるようになりました。メキシコに亡命したフィデル達は、同地でゲリラ戦の訓練、闘争資金の収集などを進め、1956年11月、82名の「7・26運動」のメンバーを乗せたヨット「グランマ」号がメキシコのトゥクスパンを出航し、キューバの東部のラ・コロラダス海岸に上陸しました。一行は待ち受けていたバチスタ軍に反撃されますが、40名が生存し、12月末までに21名がシエラ・マエストラ山中で再結集して、都市部からの支援を受けながら戦いを継続しました。

### ランスキー・マフィア帝国の成立

1956年にはモーター・オアシス(\$1,050,000)が開業し、ホテル・ベダードが増築(\$450,000)されます。1957年にはランスキーは、賭博、麻薬、セックスの3点セットでキューバの東部で米国人向けのキューバの観光の野心的で壮大な構想を抱きます。バチスタの協力を得て、ハバナ西部のハイマニータからバラデロ海岸までに50のホテル建設し、ラスベガス以上の規模でカリブのモンテカルロにしようと考えたのです(Peter Moruzzi, *Havana before*

*Castro, when Cuba was a Tropical Playground).*

1957~1958年はホテルの新設・増築がブームを迎えました。1957年3月ホテル・サン・ジョーンズ(\$1,350,000)が開業、11月ホテル・カプリ(\$5,500,000)が開業、12月ホテル・リビエラ(\$14,000,000、\$6,000,000は政府が融資。21階建て、352室)が開業、ホテル・ナショナルが増築(\$2,000,000)、1958年3月ホテル・ハバナ・ヒルトン(\$24,000,000、31階建て、630室)が開業、7月ホテル・ハバナ・ドゥビーユ(\$1,500,000)が開業されました。

しかし、マフィアの中で抗争も生じました。1957年ニューヨークのシシリア・マフィアのアルバート・アナスタシアが、ランスキーに対抗してホテル・ハバナ・ヒルトンでカジノを経営する予定と発表すると、ランスキーはバチスタに手を回し、アメリカの雑誌『コロネット』でキューバはアナスタシアの進出を望まないと述べさせました。ランスキーは、ハバナでの活動に集中するため、1957年6月、ラスベガスからハバナに居を移し、ハバナのプラド通りに常駐するようになりました。同年11月アナスタシアは、ニューヨークの理髪店で暗殺されました。ハバナの縄張りを守るため、ランスキーが関わったと見られています。1957年12月にはジョン・F・



ケネディとマリリン・モンロー\*

ケネディ上院議員が、民主党の同僚議員ジョージ・スマザーズとキューバを訪問し、ゴルフ・ヨット・キャバレー、女遊びに興じ、ランスキーは、ケネディに何人かの女性を世話したとランスキーの妻が後年語っています。ケネディは、カジノにあまり興味なく、もっぱら女性遍歴に興味があったようです(Thomas G. Paterson, *Contesting Castro: The United States and the Triumph of Cuban Revolution*)。\*ケネディはマリリン・モンローと極めて親密な関係にあったといわれています。

この時が、ランスキーの「ハバナ・マフィア帝国」の絶頂期でした。ランスキーは、ホテル・リビエラ、キャバレー・モンマルトル、レストラン・モンセイニユールを所有し、それらのカジノとホテル・ナショナル、キャバレー・トロピカーナのカジノを支配していました。これらから、売り上げの30%がランスキーに入ってきました。またランスキーの支配下にあるサント・トラフィカンテ・Jrが、ホテル・カプリ、ホテル・コモドーロ、ホテル・ドゥビーユ、ホテル・セビージャ、キャバレー・サン・スーシーを所有し、カジノを運営していました。これらから、ランスキーは、売り上げの10%を徴収しました。

ハバナのマフィア活動の総本部は、ホテル・リビエラに置かれ、ランスキー、ノーマン・ロットマン（サン・スーシー支配人）、ジョー・スタシ（キャバレー・トロピカーナ支配人）、サント・トラフィカンテで構成され、毎週金曜日に会合を持ち、ランスキーの指示に従っていました(Enrique Cirules, *El Imperio de La Habana*)。1958年、雑誌『ライフ』はハバナ特集を掲載し、ハバナをラテンアメリカのラスベガスと紹介しました。「マフィアとバチスタ大統領、閣僚、軍・警察の上層部、高級官僚の間で密接な協力関係があり、何百万ドルが彼らにばらまかれている。マフィアは、麻薬と売春でなんらの政府の干渉も受けず、完全に自由に活動している」と紹介しました(Louis A. Pérez, Jr., *Cuba and the United States: Ties of Singular Intimacy*)。



サント・トラフィカンテ

50年代、キューバへの観光客は1950年の年間16万人から1957年27万人まで増加、特に1954年以降急増しましたが、米国人観光客は常に85%余を占めていました。米国人のみが、ビザなし、パスポートなしで入国可能という特権を与えられていました(Evaristo Villalba García, *Cuba y el Turismo*)。1953年ようやくキューバは、カナダ人にビザなし入国を認めましたが、パスポートの提示は引き続き要求しました。

### 様々な勢力、反バチスタ独裁に立ち上がる

1957年3月、大学生を中心とする革命幹部団(DR)が大統領府を襲撃しましたが失敗し、指導者のホセ・アントニオ・エチェベリア他35名が死亡しました。続いて9月にはシエンフエゴス海軍基地でディオニシオ・サン・ロマン中尉が率いる海軍が蜂起しましたが、失敗しました。同年2月ニューヨーク・タイムズの記者、ハーバード・マシューズがシエラ・マエストラ山中でフィデルとインタビューし、同紙に掲載され、ゲリラ戦が展開されていることが報じられます。10月にはゲリラ勢力は100名余に成長しバチスタ軍の「冬季攻勢」を打ち破り、シエラ・マエストラの西部地域のほぼ全域を支配するようになっていました(チェ・ゲバラ『革命戦争回想録』)。

マフィア側も、こうした反バチスタの様々な動きを知っており、1957年11月、ニューヨークで100人のマフィアが参加して開催されたアパラチン会議の重要なテーマの一つは、キューバ問題で、反バチスタ派ともコンタクトするか、両方を観察するかということがテーマでした。ハバナからはサント・トラフィカンテ、ホセ・シレシが出席。ランスキーは、シシリャ・マフィアでなく参加しませんでした。会議の結論は、ランスキーの意見を尊重しようというものでした。

1958年になると各種の反バチスタ闘争が全国各地で現れるようになりました。2月には革



命幹部団の18名がマイアミを出発、ヌエビータにヨットで上陸し、エスカンプライでゲリラ戦を展開します。3月には反乱軍は、シエラ・マエストラの解放区で法律を制定し農地改革が行われました。4月にはフィデルの呼びかけに応じて、全国各地でゼネストが行われましたが、バチスタは過酷な弾圧でもってこれに応えました。5月にはバチスタ軍1万2,000人が反乱軍を一掃するため総攻撃作戦を展開したのに対し、反乱軍は900名でそれを撃退しました。バチスタ・マフィア帝国の終わりの始まりでした。そこから、マフィアのキューバ対策も急を要してきます。7月には、急遽米国マフィアとランスキー一派が、ドミニカでキューバ問題をめぐり会議を開催しました。

### バチスタ政権の終わりと米国の恥知らずな介入

一方、反乱軍は、8月、ゲバラとカミーロ軍が二隊に分かれて、キューバ西部に向かって進攻を開始し、各地でバチスタ軍を打ち破ります。9月バチスタは、将来を案じたのか、ランスキーにカジノからの分け前の増額を求めます。ランスキーもバチスタの将来に不安を感じ、両者の関係は冷却します(Enrique Cirules, *La Vida Secreta de Meyer Lansky en La Habana*)。しかし、両者は、それぞれの思惑から、革命が勝利する59年の1月1日まで、10月大統領宮殿で、11月クキーネ農場で、12月コロンビア兵営で、と頻りに会うようになります。会うたびに、バチスタは、ランスキーにカジノからの増額の増額を要求し、ランスキーは、「貪欲な奴」だとあきれたといいます(Enrique Cirules, *ibid.*)

バチスタは、自らの勢力を維持するため世論をあざむき、11月大統領選挙を行い、自らは立候補せず、進歩行動党のアンドレス・リベーロ・アグエロを他党とともに押し、アグエロが当選します。しかし、国民は選挙に背を向け、投票率はわずか30%でした。米国は、この時すでにバチスタの将来を見限り、第三勢力としていくつかの反カストログループとコンタクトしていましたが、いずれも適当でないと決めあぐねていました。12月10日スミス米大使が、バチスタにアグエロを米国政府は支持しないと通達しました。さらに米国は、12日ウィリアム・D・ポーリイ米政府特使を派遣し、バチスタにキューバを出国し、マイアミに脱出するよう進言しましたが、バチスタは受け入れず、むしろ米国の軍事干渉を求めました(Earl E.T.Smith, *The Fourth Floor: An Account of the Castro Communist Revolution*)。さらに17日スミス大使は、バチスタと「親密かつ心を開いて」会談し、米務省の指令としてバチスタが全国を掌握しておらず、辞任を勧めましたが、バチスタは受け入れず、再度米国の介入を要請しました(Earl E.T.Smith, *op.cit.*)。スミス大使がそれを断ると、逆にバチスタは米国への亡命を要望し、スミス大使はそれを断ります(Oscar Pino-Santos, *Los Tiempos de Fidel, El Che y Mao: Tal y como los conocí*)。これらの一連の米国の言動は、明らかに恥づかしいほどのキューバ内政に対する干渉でした。

### ランスキー・マフィア帝国の終焉

反乱軍側は、12月カミーロ、ゲバラの西部侵攻が、人民社会党や革命幹部団の抵抗運動と呼応して着実に進行するとともに、12月31日キューバ第二の都市サンティアゴでもフィデル、ラウルが指揮する反乱軍が制圧しました。中部のラス・ビジャス県でカミーロの部隊が12月22～31日の戦いで重要な勝利を収め、29日サンタクララの戦いでゲバラが政府軍を撃破、1月1日最終的に勝利し、バチスタ独裁政権の命運は尽きました。

独裁者バチスタは、1月1日早朝、3億～4億ドルをもって、ドミニカに逃亡しました(Hugh Thomas, *Cuba: The Pursuit of Freedom*)。さらにバチスタは、スイス、ニューヨーク、フロリダ、メキシコに3億ドル預金していたと言われます。外貨準備金は1950年には10億ドルありましたが、バチスタが逃亡した時、7,740万ドルに、海外の銀行の借金は、3億820万ドルになっていました。一方、ランスキーは、カジノの閉鎖によりスイスの銀行に預金していた2億ドルを失ったといいます(William Weyand Turner, *The Cuban Connection, Nixon, Castro, and the Mob*)。バチスタとランスキー一派が、国庫を食いつぶした10年

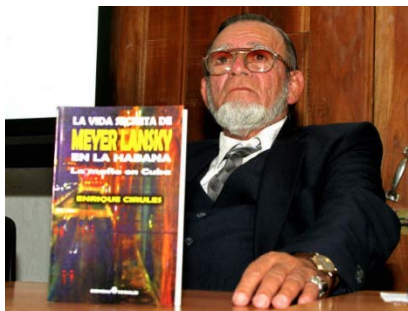


1月1日ホテル・プラサを襲う群衆  
でした。

ランスキーは、バチスタの国外脱出を、日付が1月1日に変わった深夜にホテル・プラサのカフェテリアで仲間とキューバ人の愛人カルメン(30歳年下のスタイルのいいヨーロッパ系の美人だったといわれています:Ciro Bianchi Ross, *Juventud Rebelde*, septiembre 1, 2013)といるところに、ホテル・カプリのカジノの配下のチャールズ・ホワイトが駆けつけて知らせます。ランスキーは、バチスタの逃亡を予測していたのか、平然と伝言を聞き、部下のボディガードのキューバ人ハイメ・カシエージェス(1931-2007)に、経営しているすべてのカジノに行き、集金するように命じ、カルメンの家に仲間と閉じこもります。街では早朝から群衆がパーキングメータを壊したり、商店や、一般のカジノを襲ったりしはじめました。しかし、ナショナル、ヒルトン、カプリ、ドゥビーユ、コモドーロ、リビエラ、トロピカーナの高級カジノは、すでに労働者や7・26の活動家によって警護されており、群衆は入ることができませんでした。サン・スーシーは、トラフィカンテが対策をとって、群衆により破壊されました。夜9時ランスキー達は、カジノの上がり金の分配を行い、それぞれ数百万ドルを手に入れました(Enrique Cirules, *La Vida Secreta de Meyer Lansky en La Habana*)。

ランスキーは、ホテル・リビエラがフィデルのゼネスト指示により労働者により管理されて

いましたが、米国人宿泊客の国外脱出に全力をあげました。また、他のマフィア達が競って国外脱出する中で、キューバに残り、約 2,500 人いた米国人観光客が出国できるように米大使館と協力したといわれています (Thomas G. Paterson, *Contesting Castro: The United*



*States and the Triumph of Cuban Revolution*)。ランスキーは、キューバを去る 2 日前の 1 月 7 日にボディガードのカシエージェスに「キューバ新政府に、われわれは、カジノを経営するだけで、売春も麻薬もやらない、カジノは正直な商売だ。カジノで損をしてもそれは米国人観光客が損をするだけだ。カジ

ノ税は高いのでキュー

バにも大変な利益があると強調し、カジノ再開を許可してもらうように」と言い残します。

1 月 9 日ランスキーは、数百万ドルの入ったアタッシュケースを抱えてキューバを出国しました。ランスキーは、バチスタと革命政府の違いをあまり理解していなかったようです。カジノはその後再開されることはありませんでした。

### すべてのカジノ国有化され、再開不可能になる

革命政府は、キューバ社会の民主化を進め、2 月全国宝くじを、またカジノ賭博を廃止しました。キューバでは、チャラーダ、ボリータなど様々な庶民の賭博が発達していましたが、社会の不安定と退廃した情勢を反映して、バチスタ独裁制度のもとでかつてなく発達し、年間 1 億ドルが使われていたといわれています (Juan Carlos Rodríguez, *La Verdadera Historia de la Dictadura de Furgencio Batista*)。2 月末、ランスキーは、キューバのカジノの状況を知るため、再びキューバに戻りますが、カジノ再開の見通しももてず、他国でのカジノ経営を決意してキューバを去ります。3 月ランスキーは、愛人のカルメンを米国に連れだすためにハバナに戻りますが、カルメンはプラド通りの家に住んではいず、忽然と姿を消し行方も分かりませんでした。ランスキーは、カシエージェスをホテル・ナショナルに呼び出し、プエルトリコで一緒にカジノを経営しようと強く誘いますが、カシエージェスは、「もう時代が変わったので、キューバに残り、一から出直したい」といって受け入れませんでした。4 月半ばランスキーは失意の中でキューバを去り、二度と戻ることはありませんでした。



2 階がカルメンの家

59 年 12 月、ヒルトンのカジノが閉鎖され、60 年になると、米国との対立が激しくなり、国有化が進められます。6 月にはテキサコ製油所が、7 月には石油会社エッソ、シェルが接收されました。また、8 月にはアメリカ資本の石油精製会社、36 の製糖会社、電話、電気会社などの企業が国有化されました。国有化は観光部門にも及び、5 月ホテル・ドゥビーユ、

9月ホテル・カプリが、6月にはホテル・ハバナ・ヒルトン、ホテル・ナシオナル、ホテル・サンジョンズ、ロシータ・デ・オルネド、キャバレー・トロピカーナが国有化されました。9月にはオリエンタル・パークの競馬場が収用されました。10月13日キューバ政府は、すべての銀行（カナダ系を除く）及びキューバ資本の382の商業・工業の大企業を、同月15日には273大企業を国有化しました。さらに同月24日残存する164すべての米系企業を国有化しました。この決議によりヒルトン、ナショナル、リビエラ、カプリ、バラデロ・インターナショナル、プレシデンテ、ピノス島のコロニー、ドビーユが国有されました（Evaristo Villalba García, *Cuba y el Turismo*）。ここに、ランスキー「カジノ帝国」は、完全に消滅したのです。

### アメリカ・マフィア、CIA とフィデル暗殺計画を進める

キューバという巨大な稼ぎ場所を失ったアメリカ・マフィアは、キューバ革命を、とりわけ指導者のフィデル・カストロを強く恨みます。それは、アイゼンハワー政権、ケネディ政権とも軌を一にし、CIA とマフィアの共同でカストロ暗殺計画が進められました。アイゼンハワー政権は、1959年10月からカストロ政権転覆の計画をCIAを中心として進めますが、並行して、マフィアを使って賭場を失わせたカストロ暗殺計画も取り組みます。

1960年8月CIA計画局担当副長官ビッセルは、作戦支援部長シェフィールド・エドワーズにカストロ暗殺要員を探すことを依頼し、CIA要員のメイヒューを通じてマフィアのジョン・ロッセリを知ります。10月メイヒューは、ロッセリの紹介でサム・ジアンカーナ、サント・トラフィカンテ・JRと会います。1961年1月3日、米国は一方向的にキューバとの国交を断絶します。

同年1月の初めビッセルは、CIA幹部ウィリアム・キング・ハーベイに作戦の指揮権を与え、暗殺を含む外国人指導者を抹殺する命令を下します。作戦名は、ZR/RIFLEでした。3月、CIAは、要員トニー・バロナ(元真正党幹部)にカストロ暗殺のため毒薬と1万ドル渡します。また、ZR/RIFLE計画として、CIAのハーベイは、CIA作戦要員のジム・オーコンネルを通じて、サム・ジアンカーナ、サント・トラフィカンテ、ジョニー・ロッセリ、ロバート・メイヒューに毒殺用ピルを渡し、5万ドルをロッセリに渡しました(Claudia Furiati, *ZR/Rifle, El Complot para Asesinar a Kennedy y a Fidel Castro*)。4月にはケネディ大統領も、サム・ジアンカーナにカストロ暗殺を依頼しました(Anthony Summers, *The Sunday Times*, London, ビューズ、1991年11月27日号、講談社、70-71頁)。

11月には、ビッセルは、ハーベイと「キューバへのZR/RIFLE計画の適用問題」について話しあいました。ハーベルは、タスク・フォースW(W機動部隊)の責任者に任命され、カストロ暗殺の任務を与えられました。キューバ要人暗殺計画、ZR/RIFLE計画として、ハ

ーベイは、デイビッド・サンチェス・モラーレスを CIA メキシコ支局から呼び寄せ、ジョニイ・ロッセリも協力者となりました。ロッセリは、サント・トラフィカンテ、マイヤー・ランスキーにも協力を依頼し、ランスキーはそれを受け入れ、カストロの暗殺に 100 万ドル提供することにしました(Warren Hinckle & William Turer, *Deadly Secrets: Claudia Furiati, ZR/Rifle, El Complot para Asesinar a Kennedy y a Fidel Castro*)。

もう一つの米国政府自体の計画は、1961 年 11 月 30 日、マングース計画＝キューバ侵攻計画として作成され、ケネディ大統領により署名、承認されました。マングース作戦は、キューバ直接侵攻、カストロの暗殺も含む、米国の恥ずべき内政干渉計画でした Fabián Escalante Font, *La Guerra Secreta: Operación Mangosta*)。この計画は、1962 年 10 月のミサイル危機の後、取り下げられました。

バチスタは、1959 年にドミニカ共和国に亡命した後、ポルトガルのマデイラ島に渡り、最後には 1973 年スペインのマールベージャで心臓発作で死亡しました。ランスキーは、マイアミで 1983 年死亡しました。FBI は、ランスキーが死んだとき、3 億ドルを隠し口座にもっていたと推測しています。ランスキーのキューバ人ボディーガード兼運転手アルマンド・ハイメ・カシエージェスは、ノースウエスタン大学卒でラスベガスのカジノでカード・ディーラーを務めていました。彼は、その時ランスキーに誘われ、一緒に仕事をするようになったインテリ・マフィアでした。彼も 2007 年 2 月 12 日、ハバナで静かに息を引き取りました。享年 75 歳でした。

#### 新たに始まった両国の補償問題交渉

それでは、ランスキーの孫、ゲイリー・ラパポートのホテル・リビエラ請求、800 万ドルはどうなるのでしょうか。米国政府の対外クレーム解決委員会は、キューバ向けに 1972 年 7 月 6 日に受付を締切り、さらに 2005 年から 2006 年の間追加受け付けを行いました。現在は受け付ける予定はないとのこと。クレーム件数は、約 6,000 件、80 億ドルになると計算されています。ラパポートの請求は、この期限内に行われておらず、ラパポートは、法的には請求権がないこととなります。

昨年 12 月米玖間で、相互補償問題の会議が開催されました。実は、1960 年の国有化後、両国は、補償問題で話し合っていました。キューバ側は、1960 年に米系企業を国有化した際に補償計画として、30 年償還、金利年利 2%として提起しました。米国側は、国有化は国際基準に違反するもので、即時の支払いで、5,911 件総額約 18 億ドルを提起しました。しかし、キューバ側は、米国側の数字は、時価であり、簿価にもとづかなければならないとして対立していました(Kirby Jones, “The Issue of Claims as Seen by the United States” in *Subject Solution, Problems in Cuban-U.S. Relations*)。しかし、この交渉は、米国の一方的な国交

断絶で途絶しました。今回、米国側は、前述した米系国有化資産 6,000 件 80 億<sup>ドル</sup>の補償を請求しています。

一方、キューバは、米国のテロ行為によるキューバ人死者 3,478 名、負傷者 2,099 名への補償を 1,811 億<sup>ドル</sup>と 1999 年に設定して要求しています(*Demanda del Pueblo de Cuba al Gobierno de Estados Unidos por Daños Humanos*, 1999)。また、米国の経済封鎖による損害は、キューバは、2000 年度に 1,210 億<sup>ドル</sup>と設定していますが、2015 年の報告では、1 兆 1,125 億ドル (2014 年) と設定されています (*Informe de Cuba, junio de 2015*)。この損害補償問題は複雑で、かなりの時間を必要とするでしょう。

このように見ると、ゲイリー・ラボポートの請求は、法的にも、倫理的・道徳的にも基盤がないように思われます。

(2016 年 1 月 12 日 新藤通弘)